

## 第 28 回 ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議

### 共同ステートメント(仮訳)

【2025 年 5 月 4 日 イタリア・ミラノ】

#### I. 序

1. ASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議(「会議」)は、アミル・ハムザ・アジザンマレーシア第2財務大臣、アブドゥル・ラシード・ガフォールマレーシア中央銀行総裁、藍仏安中華人民共和国財政部長、及び潘功勝中国人民銀行総裁の共同議長の下、2025年5月4日に開催された。会議は、イタリア・ミラノで開催された。会議には、ASEAN+3マクロ経済リサーチ・オフィス(AMRO)所長、アジア開発銀行(ADB)総裁、ASEAN副事務総長、国際通貨基金(IMF)副専務理事も参加した。
2. 我々は、ミャンマー国民に向けて、3月28日に発生した壊滅的な地震により引き起こされた甚大な人的被害と破壊に対する深い哀悼の意を示した。我々は、この困難な局面にある被災した人々のことを思い、復旧と復興に向けた彼らの取組に連帯する。

#### II. 最近の地域経済・金融情勢

3. 我々は、世界・地域経済の現下の動向や見通し、及び台頭するリスクや課題への政策対応について意見交換した。我々は、地域経済がこの不確実な環境を乗り越えるうえでのASEAN+3財務プロセスの重要な役割を認識し、主に、チェンマイ・イニシアティブ(CMIM)、AMRO、アジア債券市場イニシアティブ(ABMI)、災害リスクファイナンス(DRF)、ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性の下でのイニシアティブ、及び本年の優先議題として採用された、財政政策対話の促進、戦略的方向性の改訂、及び政策調整インストルメントの模索を通じて、地域金融協力を更に強化することに合意した。
4. 昨年、ASEAN+3地域においては、力強くかつ強靱な経済成長が見られた。地域経済は、2023年の4.4%の成長に続き、2024年には4.3%成長した。地域の成長は、主として、堅調な国内支出と、電子産業の好調、及び観光業の継続的な回復から恩恵を受けた外需によりもたらされた。インフレは沈静化し、ヘッドラインインフレは多くの域内経済においてパンデミック前の水準に回帰している。また、コアインフレも、適切な金融政策のスタンスと堅固にアンカーされたインフレ期待を反映して低下した。2024年後半における不安定性の高まりにもかかわらず、金融市場は引き続き良好に機能し、柔軟な為替レートと潤沢な外貨準備に支えられ、対外セクターは引き続き強靱であった。
5. 堅調なマクロ経済のファンダメンタルに支えられ、地域は、地政学的緊張及び貿易摩擦を含む外的要因が継続する中であっても、2025年も4%程度のGDP成長率を維持し、引き続き強靱であり続けると見込まれる。地域の成長は、強い投資活動と堅調な消費に支えられ、引き続き内需から恩恵を受けている。中期的には、ASEAN+3は引き続き世界経済の成長の主要な原動力であり、世界の成長の40%以上を担うと見込まれる。その一方で、2025年のインフレ率は2.0%を下回る低水準で推移すると見込まれる。ただし、地域の見通しは、不確実性の高まりに

さらされている。

6. 貿易保護主義の高まりは世界貿易への重荷となり、経済の分断を招き、地域の貿易、投資、及び資本フローに影響を及ぼし得る。短期的な見通しもまた、世界的な金融環境の引き締め、主要貿易相手国における成長の減速、及び投資フローの減少を含む他の外的リスクにも影響され得る。
7. 我々は、不確実性の高まりを乗り越えて行く中で、地域の結束と連携の更なる強化と協力の深化を呼びかける。我々の目下の政策上の優先議題は、保護主義の高まりや世界的な金融市場の不安定化を含む短期的な課題に取り組むための柔軟性を維持しつつ、長期的な強靱性を高めることである。財政面では、持続的な成長に的を絞った支援を継続しながら、政策バッファーを再構築し、構造改革を実行することを意味する。我々は、また、国内環境に応じて金融政策を慎重に調整する。我々は、外的ショックに対するバッファーとして為替レートの柔軟性を維持する。重要なことは、我々の輸出市場と成長の源泉は、近年、多様化が進んでおり、内需と域内貿易が今や成長の主要な原動力となっているということである。
8. 不確実性の高まりと長期的な構造変化を背景に、我々は、世界貿易機関を中核とする、ルールに基づく、無差別的で、自由で、公正で、開かれた、包摂的で公平かつ透明性のある多角的貿易体制に対する我々のコミットメントを再確認する。我々は、マクロ経済政策対話を強化し、地域金融協力を推進し、安定かつ円滑な産業・サプライチェーンの確保を通じて、地域経済及び金融の安定を共に維持していく。我々は、地域的な包括経済連携(RCEP)協定の着実な実施を全面的に支持する。
9. 我々は、国際機関に対し、多国間主義を堅持し、自由貿易を推進するとともに、貿易摩擦が世界経済に及ぼし得る影響について分析・監視し、発生しうる負のショックへの対応に向けた政策助言を通じてメンバーを支援することを強く求める。我々は、地域内の貿易及び投資フローの一層の促進を通じて、外的ショックに対する地域の強靱性を高め、既存及び新たな課題への適応を図り、持続可能で公平な経済発展を支えていく。我々は、金融市場の相互関連性を踏まえ、地域金融市場の動向を注視し、不確実性が高まる中であっても、我々の金融システム及び市場の強靱性を維持するという決意とコミットメントを再確認するとともに、急速に変化する情勢を踏まえ、メンバー国間の開かれた意思疎通を維持していく。

### III. 地域金融協力の強化

#### 【地域金融取極(RFA)の将来的な方向性】

##### 財政政策対話

10. 我々は、成長を支え金融の安定性を維持するうえでの財政政策の重要な役割を認識し、メンバー国の財政政策及び財政運営に関する知見や経験を交換する有意義な場として、2025年のASEAN+3財政政策対話を歓迎する。我々は、「財政の持続可能性を維持した成長促進」及び「人口高齢化への対応」というメンバー国共通の関心事項である2つの財政政策のテーマについて、メンバー国の事例集及び財務大臣間での限定会合という形式で初めて意見交換が行われたことを評価する。我々は、本プロセスにおけるAMROの技術支援を称賛し、メンバー国

間での財政政策対話の促進に向けたAMROの更なる関与を期待する。我々は、代理に対し、AMROの支援を得つつ、財政政策対話の成果を分析し、財政政策対話を定期的な議論の場とする可能性を検討することを指示する。

### **ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性**

11. 我々は、経済及び金融情勢の変化を認識し、ASEAN+3財務プロセスの関連性と適応性を確保するため、2019年に採択された「ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性」を見直し、更新する重要性に合意する。これは、将来の地域金融協力における優先分野を特定し、主要な取り組みの実施メカニズムを強化することにより達成される。この観点から、我々は、「ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性の更新に関する指針文書」を承認するとともに、戦略的方向性を見直しにおいて、包括的かつ幅広い見地から洞察を提供し、課題と機会を評価し、政策助言を提供するため、域内の8名の専門家で構成される専門家パネルの設置を歓迎する。
12. 我々は、また、2019年の「ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性」の採択以来の進捗を歓迎し、「2019年のASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性に関する現状分析報告書」に概要が示された、地域の経済成長の促進、地域統合の推進、及びASEAN+3財務プロセスの実効性・効率性の向上における顕著な実績を称賛する。
13. 我々は、ASEAN+3の枠組みの下で地域金融協力を推進していくとのコミットメントを再確認する。我々は、AMRO及び関連機関の支援を得て、メンバー国と包括的かつ集中的に協議し、専門家パネルの分析と助言を反映しながら、ASEAN+3の戦略的方向性を見直しを行うよう、代理に指示する。我々は、経済の強靱性とダイナミズムの向上、協力の強化、及び地域の持続可能で包摂的な成長に資する取組の推進に向け、引き続き緊密に連携する。我々は、今年末の代理級会合と、続く2026年5月のASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会合において、改訂版の戦略的方向性が採択されることを期待する。

### **地域金融取極(RFA)の将来的方向性/政策調整インストルメント(PAI)**

14. 我々は、2024年にトビリシで開催されたASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会合において大臣及び総裁から指示された政策調整インストルメントの検討作業に関する進展を歓迎する。我々は、自主的かつ拘束力を持たない制度として、構造改革改善・レビュー支援インストルメント(SPIRIT)を導入することを承認する。SPIRITは、メンバー国の開発戦略及びAMROの分析に基づき、構造改革の支援のために事前に定められたテーマ別技術協力プログラムを提供する試行的なプロジェクトとして開始される。我々は、この制度の実現にあたってのAMROの支援を称賛し、AMROに試行的プログラムを支援するよう指示する。我々は、AMROの中国信託基金からの資金支援に感謝する。我々は、メンバー国が本取組の本格導入を検討する前に、今後数年のうちにSPIRITの有効性について包括的な評価が行われること、及びメンバーが合意する場合にはSPIRITを財政インストルメントとする可能性について検討されることを期待する。

### **【チェンマイ・イニシアティブ(CMIM)】**

15. 2010年に締結されたCMIMの原契約書の15周年を記念し、我々は、CMIMをグローバルな金融セーフティネットの重要な構成要素である効果的な地域金融セーフティネットとして強化してい

くことへの強固なコミットメントを再確認する。この観点から、我々は改正CMIM契約書を承認するとともに、その発効に向けた署名及び国内手続の迅速な完了に取り組むことをコミットする。本改訂は、CMIMの下で選択通貨として適格な自由利用可能通貨(FUC)が導入された緊急融資ファシリティ(RFF)の創設、及びCMIM契約書の第2回定期見直しの結果を反映したものである。我々は、CMIM契約書の改訂に沿って、改訂版CMIM運用ガイドライン(OGs)を承認した代理を称賛する。我々は、この新たなCMIMファシリティは、パンデミックや自然災害といった突発的な外生ショックに対応するための緊急対外収支ニーズが生じた際に、メンバー国が緊急融資に迅速にアクセスすることを可能とすることで、地域の強靱性を高めると確信する。

16. 我々は、地域金融セーフティネットの強化を目的とした改革へのコミットメントを再確認する。我々は、グローバル金融セーフティネットを更なる補完を視野に、CMIMから払込資本構造(PIC)への移行を目指す、代理の継続的な努力を称賛する。我々は、移行作業を進める課長級会合を技術的に支援する観点から、払込資本の資金構造のための作業部会の設立を歓迎する。我々は、また、外貨準備認定に関するIMFとの議論において、顕著な進展と多大な努力があったことを認識する。更に重要な点として、我々は、CMIMにおける払込資本構造の絞り込みに関する課長級会合報告書を承認し、代理による払込資本構造のモデルの選択肢の絞り込みにおける進捗を歓迎するとともに、ASEAN+3地域のニーズに最も適合するPICオプションの評価基準に基づき、今後はIMF型モデルに重点を置いて検討を進めることに合意する。特に、我々は、代理に対して、2025年の後半及びそれ以降に、払込資本構造を運用する上で必要なガバナンス及び能力、外貨準備認定、規模及び拠出通貨のあり方を含む、払込資本構造への移行に向けて解決すべき主要課題について、IMF型モデルを基礎として検討を進めるよう、指示する。
17. 我々は、IMFデリンク部分(IDLP)の見直しにおいて、IMFデリンク部分の即応性調査に基づき、IMFデリンク部分の潜在的な引上げに向けた更なる議論が必要となる主要な改善分野を示した客観的評価手法及びその結果について、代理が承認したことを含む進展を認識する。我々は、これに基づき、代理に対し、IMFデリンク部分の潜在的な引き上げに関する将来の議論に資するよう、客観的評価手法の更なる改善とともに、議論を継続することを指示する。我々は、CMIMにおける現地通貨(LCY)建て貸付に関する統一的な現地通貨のマージン構造の開発に向けた指針(GP)を代理が承認したことを歓迎し、承認された指針に基づき2025年末までに新たな現地通貨のマージン構造を開発するように慫慂する。我々は、IMFによる手数料及びサーチャージの引下げを認識し、その影響がCMIMの米ドルマージンに及ぼし得る含意について、可能であれば2025年末までに調査するよう指示する。その調査の結果を踏まえ、必要な場合には、2026年までにCMIM米ドル建てマージンの見直しを開始するよう、代理に指示する。我々はまた、2024年に実施された第15回CMIMテストランが成功裏に完了したことを歓迎する。本テストランは、現地通貨と米ドルが混在して要請された場合におけるCMIM危機予防機能のIMFデリンク部分発動にかかる意思決定プロセスを検証したものである。我々は、緊急融資ファシリティのIMFデリンク部分における意思決定プロセスを検証する、本年後半に実施予定の第16回テストランに期待する。

## 【ASEAN+3マクロ経済リサーチ・オフィス(AMRO)】

18. 我々は、サーベイランス能力の強化に向けたAMROの絶え間ない努力を認識し、AMROに対し、メンバー国が不確実性が一層高まるグローバルな環境を乗り越えるために、引き続きリスクと課題を注視し、時宜を得た政策助言を提供するよう慫慂する。我々は、地域金融取極の強化に関する我々の議論へのAMROの価値ある貢献を認識し、AMROに対し、地域の強靱性促進に向けた努力を引き続き支援するよう求める。この観点から、我々は、AMROに対し、新たに顕在化するリスクに対応し、地域が将来の課題に備えを期すことを確実にするため、分析ツール及びプログラム設計を更に改善することを慫慂する。
19. 我々は、戦略的方向性2030の実施に沿った組織能力の強化に向けたAMROの取組の進展を称賛する。我々は、AMROの業務遂行能力の向上に資する、中期実施計画2025-2027、技術協力(TA)戦略2030、デジタル開発戦略、及びコミュニケーション戦略の実施を期待する。我々は、また、AMROの政策・レビューグループの試験的な運用に対する評価の実施を認識し、同グループの常設化を歓迎する。同時に、我々は、ASEAN+3財務プロセスに対し、継続性の確保及び効率性の向上に資する専門的かつ体系的な事務局支援を提供するAMROの努力を称賛する。今後、我々は、こうした取組を活用し、AMROが組織としての効率性を一層強化し、メンバー国との関与を深化させることを慫慂する。我々は、本年、中国がAMROに対して中国TA信託基金の複数年拠出を約束したことを歓迎・評価するとともに、日本及び韓国がそれぞれAMROのTA信託基金に対して継続的な年次拠出を行っていることに感謝する。これらは、AMROの発展及び地域金融協力に対する強いコミットメントと支援の表れである。
20. 良好なガバナンスは、AMROの国際組織としての効率性と信頼性、長期的な持続性を確保するうえで不可欠である。この観点から、我々は、戦略的方向性2030と整合させた形で、AMROの業績評価フレームワーク2025-2030が改訂され、説明責任をより重視した成果志向型の組織へのコミットメントが示されたことを歓迎する。我々は、過去3年間にわたりAMROの発展を牽引してきたり事務局長の力強いリーダーシップに対し、心からの敬意と感謝の意を表明する。我々は、次期事務局長である渡部康人氏を歓迎し、地域のマクロ経済及び金融の安定確保に向けたAMROの役割を更に強化していくことを期待する。
21. 我々は、2023年に承認されたAMRO幹部人事に関する選任原則への我々のコミットメントを改めて表明する。我々は、AMROの増大するビジネスニーズへの対応や、包摂性の向上を通じた幹部のガバナンス強化に向けた継続的な取組を期待する。また、AMROがASEAN+3財務プロセスの重要な柱であり続けるよう、その更なる成長と発展を引き続き支援する。
22. 我々は、ASEAN+3財務シンクタンクネットワーク(AFTN)の下で、地域の知的資源を活用して地域のマクロ経済及び金融の強靱性・安定性を支援するために達成された、着実な進歩と進行中の活動を歓迎する。我々はまた、AFTNの参加機関が21から28機関に拡大したことを歓迎する。これは、AFTNの地域協力及び政策対話のためのプラットフォームとしての機能を強化する上で重要な一歩である。新たに加わった7つの機関には、カンボジア開発資源機関、世界経

済・政治研究所、中国社会科学院、厦門国家会計学院、韓国対外経済政策研究所、マレーシア・カザナ研究所、ケバサン大学・マレーシア国際研究所、及びタイ・開発調査研究所が含まれる。我々は、このより広範なネットワークが、ASEAN+3地域のマクロ経済及び金融の強靱性及び安定性の向上により効果的に貢献すると確信している。

### 【アジア債券市場育成イニシアティブ(ABMI)】

23. 我々は、「ABMI中期ロードマップ2023-2026」の下での進捗を歓迎する。国際金融市場の不確実性が続く中、機能的な現地通貨建て債券市場は地域の金融安定の礎であり続ける。我々は、信用保証・投資ファシリティ(CGIF)の15周年を祝福する。これまでにCGIFは、12の国・経済圏において9通貨にわたる、64社によって発行された100件の債券・スーク(イスラム債)に対する保証を実行し、累計保証額は41億5,100万米ドルに達する。我々は、ワン・ホンウェイCEOのリーダーシップの下、過去3年間ににおけるCGIFの前例のない事業成長を称賛する。我々は、CGIFが発行した2つのレポート、「ASEAN+3 社債市場レポート」と「CGIFの持続的成長の歩み」を歓迎する。これらは、2010年以降のCGIFの運営実績と、ASEAN+3現地通貨建て債券市場の進展、そして今後の政策的アプローチについて体系的にレビュー・評価したものである。

24. 我々は、ABMIが、現地通貨建てのサステナブル・ボンドの発行を促進し国内市場を創出するとともに、より広範なサステナブル・ファイナンスのエコシステムの発展に取り組んでいることを認識する。この取組には、必要な規制の枠組みの整備、地域の認証機関の関与、サステナビリティに関する開示慣行の強化が含まれる。カザフスタンがオブザーバーとしてASEAN+3債券市場フォーラムに参加することを歓迎し、今後更に、債券市場のデジタル化に関する知見と経験を共有するため、ASEAN+3域外の国々との関与が深まることを期待する。ABMIの下、デジタル債券市場フォーラムが設立され、成功裡に立ち上がったことを歓迎する。このフォーラムが、研究や知識の共有、そして地域での導入を見据えたビジネスモデルの構築に向けた協力の場として機能することを期待する。ABMIの取組に対するADBの貴重な貢献に感謝し、域内債券市場の更なる発展に向けて連携を深めていくことを期待する。

### 【自然災害リスクファイナンス(DRF)】

25. 我々は、東南アジア災害リスク保険ファシリティ(SEADRIF)と世界銀行やアジア開発銀行(ADB)、アジア開発銀行研究所(ADB I)、GAIPを含む多国間パートナーの支援の下、DRFIの推進において達成された進展を喜ばしく思う。特に、SEADRIFとの連携の下、ラオス人民共和国とフィリピンにおいて実施されたDRFの取組に伴う進展を歓迎する。とりわけ、ラオスは2023年の大規模洪水に対して150万米ドル、2024年の台風ヤギ後に300万米ドルと、2度にわたり迅速な洪水保険の支払いを受けた。また、フィリピンは公共財産向けのパラメトリック保険の開発に焦点を当てたワークプランの実施を開始している。また、DRFIが多国間機関と連携し実施している、特に農業向けDRFや全体的な災害リスクレジリエンスに関するキャパシティ・ビルディングの取組みも高く評価する。これらの取組みは、ASEAN+3メンバーのリスクに対する認知を高め、効果的なリスク管理およびレジリエンス戦略に関する理解を深める上で重要である。最後に、我々は、2026～2028年のDRFIロードマップの柱を示したコンセプトノートを承認する。

我々は、地域の災害強靱性を強化し、大規模災害が人々に及ぼす影響を最小限に抑えるため、ロードマップの策定を代理に指示する。我々は、本年末の代理級会合においてロードマップが承認され、2026年5月のASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議において承認されることを期待する。

#### 【ASEAN+3財務プロセスの戦略的方向性】

26. 我々は、作業部会(WG)によるものを含む、ASEAN+3金融協力の深化・拡大における大きな進展を歓迎する。我々は、地域のインフラ開発に向け、特に民間資本によるサステナブル・ファイナンスを促進するため、WG1の下での継続的な協力を歓迎する。これは、持続可能なインフラのためのサステナブル・ファイナンスに関する地域のビジョンを発展させ、よりグリーンな経済への移行にかかる資金調達能力の向上を通じ、長期的かつ持続可能な成長を確保するため努力を含む。我々は、ADBとの共催で開催されたフィンテック・セミナー及び主要なデジタル金融関連のリスクを特定した「デジタル金融危機と我々の課題：予防と備え」と題した報告書を含む、WG4の金融デジタル化に関する業務の進捗を認識する。我々は、WG4を2026年まで延長すること、及び特に地域のデジタル金融の安定性に焦点を当てた対象範囲の拡大を歓迎する。

#### IV. 結語

27. 我々は2025年のASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁プロセスの共同議長として素晴らしい準備を行った、マレーシア及び中華人民共和国当局に感謝の意を表明する。我々は、2026年にウズベキスタン・サマルカンドで会することに合意するとともに、2026年のASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁プロセスの共同議長となるフィリピン及び日本と協力していくことを期待する。

